

地域包括ケアシステムが重要視され、最近では医療と介護の一体的な議論の場を設ける施策も始まり、今後医療から介護への移行はますます加速するであろう。地域に暮らす人々への理学療法の提供には、医療保険における訪問と外来通院、介護保険制度や障害者総合支援制度における訪問と通所がある。効率化の目的で施設などの機能分化が進んでいるが、理学療法もその役割を明確に示していく時期にきたと言える。本特集は、通院・通所に視点をあて、さまざまな制度の通院・通所における理学療法の役割を可能な限り鮮明に捉え、再考する機会とした。

■整形外科領域における通院の理学療法(渡邊幸勇, 他論文)

現在、超高齢社会を迎え地域完結型医療の構築および地域包括ケアシステムの構築、推進が急務となっている。このようなことから、理学療法士として地域完結型医療や地域包括システムのどの部分を担い、社会貢献・地域貢献を行っていくのか整理していくことが重要である。そのことが、本来もっている理学療法士としての強みを社会へ還元していくことにつながると考える。

■中枢神経疾患における外来リハビリテーションの実際—理学療法実施と外来管理(土井博文論文)

超高齢社会に入り膨大な社会保障給付費を超えたわが国では、医療費削減のため、中枢神経疾患への外来リハビリテーションの継続が難しくなっている一方、理学療法技術は進歩しており、回復期以降の中枢神経疾患に対する外来リハビリテーションの必要性は確実に高まっている。中枢神経疾患では病気の進行とともに、機能の廃用・誤用、進行・悪化などのリスクを抱え、リハビリテーション領域による長期的な経過管理と支援体制が必要である。

■呼吸器疾患領域における通院の理学療法(北川知佳, 他論文)

呼吸リハビリテーションは慢性呼吸器疾患に対する治療のなかでも重要な位置を占めており、運動耐容能と身体活動量の維持・拡大のため、通院・通所の役割は大きい。長崎呼吸器リハビリクリニックでは他医療機関からの紹介による通院・通所の利用患者も多く、他施設との連携は重要である。また外来理学療法の対象者数は年々増加、通所での呼吸器疾患の割合も多く、呼吸器疾患患者における急性増悪の予防、早期治療のため通院・通所の必要性は今後も高くなると考えられる。

■介護保険制度における通所の理学療法(島田達也論文)

現在、介護保険制度における通所サービスの理学療法士には、心身機能・活動・参加の要素にバランスよく働きかける効果的なサービス提供が求められており、その先には、役割づくりや地域の集いの場などへの参加をめざしていくことも求められている。各サービスの特性や役割を振り返り、地域包括ケアシステムの中核を担う通所サービスで、理学療法士がどのような役割を果たせるかを考え、利用者一人ひとりに合わせた適切なサービス提供が展開されることを期待する。

■障害児・障害者における通所理学療法(平沼勝也論文)

福祉制度に規定される障害児・者の通所事業は、日中活動やリハビリテーションの場である。障害者の地域生活が進んでいる背景から、そこで従事する理学療法士には身体機能の維持・改善や日常生活のスキル習得のような運動を指導する役割だけではなく、その地域に住む障害児・者がよりよい生活が送れるよう、地域資源へのアプローチや関係者との協働など幅広い役割が期待される。